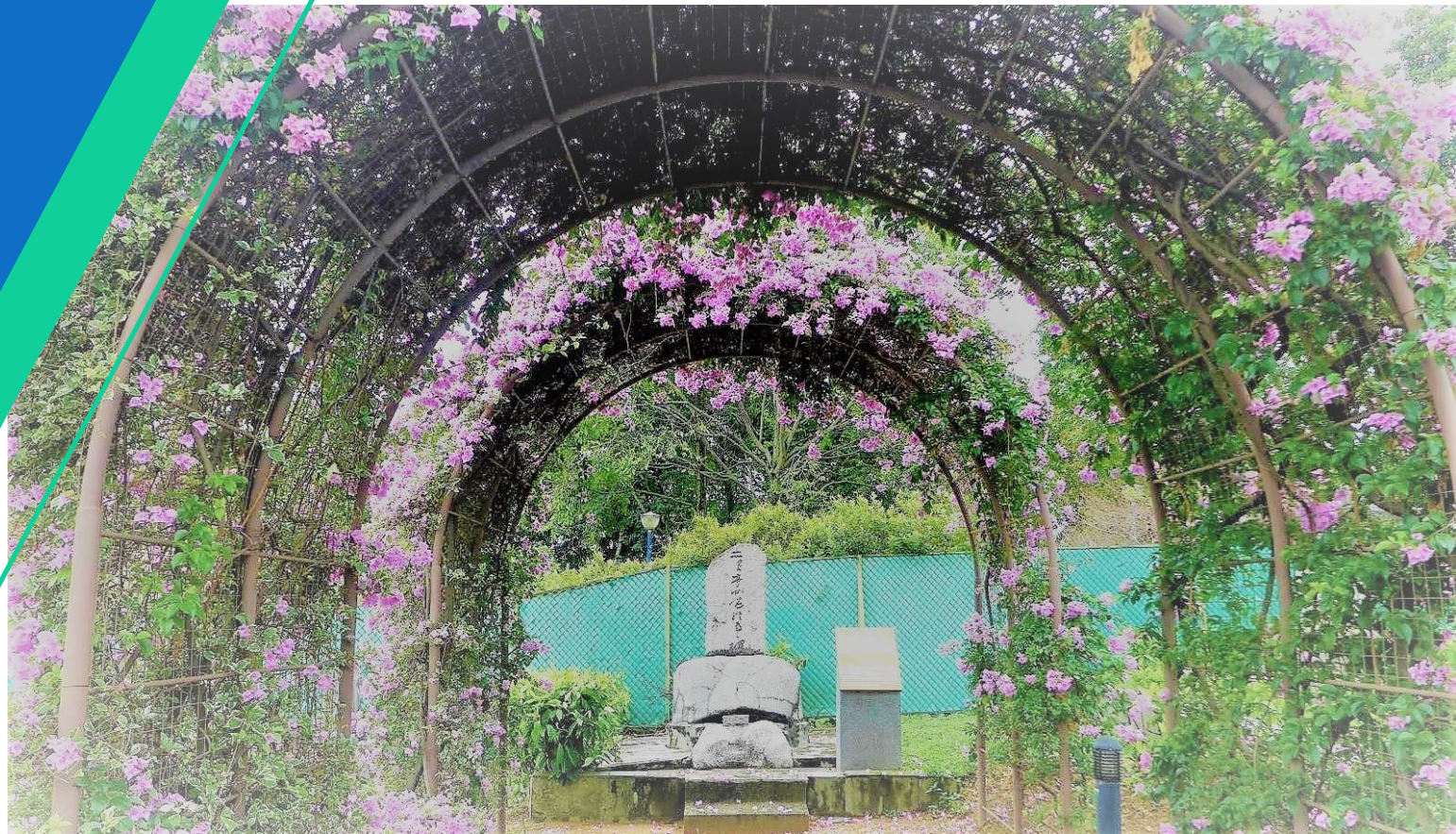




史蹟史料部

2022 年 5 月 10 日

#5

日本人墓地公園 ニュースレター

二葉亭四迷終焉之碑

日本人墓地公園のフラワーアーチの奥に佇む、小説家二葉亭四迷（ふたばていしめい）の石碑。日本の文学史の中でも印象的な名の文豪の碑が日本人墓地公園にあります。この石碑は墓ではなく、遺骨は東京の染井墓地に埋葬されています。

二葉亭四迷の本名は長谷川辰之助、1864 年生まれ。ロシア文学者、小説家、翻訳家。文学は男子一生の仕事にあらずと軍人を志し、士官学校を三度受験し、三度とも失敗しましたが、文芸史上大きな業績を残しました。

近代ロシア文学の影響を受け、創作や翻訳に現実主義を導入しました。自らの小説総論に基づいた『浮雲』は言文一致体で書かれた日本で最初の近代散文小説です。

東京外国語学校教授を経て、1908（明治 41）年、朝日新聞特派員として渡露。

1909（明治 42）年 5 月 10 日、肺を患った四迷は帰国途上の日本郵船賀茂丸船中にてベンガル湾洋上で死去。13 日、当地パシル・パンジャンの丘にあった火葬場で荼毘に付されました。

代表作品に『浮雲』、翻訳作品『あいびき』『うき草』『其面影』『平凡』などがあります。



1929（昭和4）年7月14日、南洋日々新聞社社長古藤秀三他の尽力により自然石を用いた碑が日本人墓地に建立されました。この碑文は小説家 徳富蘆花に依頼するはずでしたが、実際は当時シンガポール在住の医師・西村竹四郎（号：點南「てんなん」）の筆になりました。西村竹四郎の碑もまた日本人墓地公園にあります。

出典：墓地サインボード、「シンガポール日本人墓地公園 - 写真と記録 改訂版 -」シンガポール日本人会 史蹟史料部 1993 年改訂版発行 233p.

開門時間を変更しました

**日本人墓地公園は月曜日～日曜日の毎日
朝7時から夜7時まで開門しています**

シンガポールにお住いの皆様、旅行でいらっしゃる方、ぜひシンガポール日本人墓地公園をご訪問ください。詳しくは以下のリンクよりウェブサイトをご覧ください。

[シンガポール日本人会 | 日本人墓地公園 \(jas.org.sg\)](http://jas.org.sg)

日本人墓地公園で探してみてください

- ①緑のフェンスに隠れた墓地公園の看板。バス停から歩いて墓地公園に向かう方は見たことがあるかもしれません。
- ②動きが速いチェンザブルリザード。居る場所に合わせて体の色を変えます。史蹟史料部が毎月墓地に行くときに、よく御堂の周りで姿を見せてくれます。

